



今回のテーマ

教師全員が主体的にかかわる工夫

授業研究には、一人ひとりの教師が主体的に取り組むことが欠かせない。授業づくりの議論が深まると共に、継続的な研究が可能となるからだ。しかし、毎年、メンバーが異なる中で、全員の意識を共有することは簡単ではない。今回は、さまざまな手立てにより全教師の主体性を引き出している事例を紹介する。

事例 神奈川県川崎市立橋小学校

研究会に「自分の視点」を持って参加

参観者も多くを学べる

「さん・かん・しゃカード」

川崎市立橋小学校は、「子ども一人一人を大切にしたい豊かな人間性を育む教育」を目指している。研究科は社会科、生活科、特別支援教育だが、石川健次校長は、全教科で一貫してすべての子どもを生かした授業づくりを目標にしていると話す。「学級には多様な子どもがいます。目の前の一人ひとりの子どもの個性が生かされる、互いに学び合い、認め合える教育を目指しています」

研究主任の鵜木朋和先生は、授業

研究における特徴の一つとして、

日々の授業を重視することを挙げる。

「学級づくりと共に、普段の授業づくりでも目指す教育を意識することが大切だと考えています。そのため、授業研究は普段の授業を見合っている感覚で行っています。当日の授業の様子にとどまらず、『普段はどうなの?』ということもよく話し合います」

特徴の二つめは、どの教師も主体的に授業改善に取り組むために、次の手立てを取っていることだ。

■全員が年間個別研究テーマを設定

授業改善への意識が明確になる。

年度末には振り返りレポートも書く

■全員が年2回、研究授業を実施

1回目の課題を反映し、2回目の授業を改善すると共に、本当に改善できたのかを確認できる

■授業研究での「さん・かん・しゃカード」の活用(図1)

個々の研究テーマの視点も記入することで、都度の授業研究の学びが増す。協議会での議論も活発になる

■意識共有の場を多く設ける(図2)

授業づくりや、研究の考え方・方を進めていきたいと思えます」

法をこまめに伝えられ、新任者や異動者も授業研究に同じ意識で臨める

2010年度は、10月頃に、『目の前の子どもと共に』というキーワードが教師の間から自然に出てきた。

この頃を境に、多くの教師が子どもの日々の変化を実感し、学校全体として主体的な雰囲気が高まってきたと教務主任の松岡広記先生は話す。

「多様な手立ての積み重ねから学校全体で取り組む雰囲気生まれると感じます。今後もその年ごとの先生方と共に、全員が参加できる研究を進めていきたいと思えます」

年 組 級	授 業 の 視 点
ゆさぶりの資料を提示することで、資料②以降の子どもの視点を広げることができていたか。	
年 組 級 名 前 ()	年 組 級 名 前 ()
授業を見る上での自分の視点 ゆさぶりの資料の答えとどう考えたか	授業を見る上での自分の視点 教師の発問
大分保良館の言葉は、子どもの答えと深める きっかけに出来たか(思考)	鉄道=速く便利と鉄道について 考えていた(子ども達の資料②の提示 の国に比べての鉄道という視点に広 がったように思いました。先生の意図 は何か?)という発問がきっかけに思っ
地図は読み取りが難しいか?工業地 帯と結びつけるのは、展開図と関係が 子どもたちは、鉄道と工場は結びつけられた。	
年 組 級 名 前 ()	年 組 級 名 前 ()
授業を見る上での自分の視点 話し合い	授業を見る上での自分の視点 話し合い
子どもたちから意見が挙がったのは、出来 たか、グループで話し合いの時間を とって、意見を言いやすかったか 思えば手紙の読み取りも、資料 の資料と「0.5」とか「1」とかがあり、自分 自身が入り込んでいたか思いました。資料② 見させましたか、本時目標の配列に いかに児童と関係させられたか、また子どもは 聞いていたのか、と思いました。	資料②のあたり... 2人の発問の あと、手紙の読み取り 資料②の地 図を提示したのは子ども達の思考を 促すのには有効な発問だと思っ ていました。さらに続く発問は話し合いの場 を
年 組 級 名 前 ()	年 組 級 名 前 ()
授業を見る上での自分の視点 グループ活動	授業を見る上での自分の視点 学習ルールについて
意見がすぐに出たのは、グループ 活動にして発表する場面が何度かあり 有効的に使われているのかと思っ た。全部の意見が全部出たか 〜だから〜だと思っただけで その後の受け方は、受け付けていたか、反対 意見や深まりに繋がっていったかと思っ	5分ほどの参観で来ていませんが、 話し合いの復習時に意見を発表す る場面でした。一人が話し出すと、 話し手の方を向いて「何い?聞け ている子どももたくさんいます」

図1 「さん・かん・しゃカード」

授業を見る視点を明確にすることで、活発な授業研究
にするためのカード。「参」加意識・「感」謝の気持ちを持
って、「社」会科の研究を行うという意味で名付けられ
た。橘小学校では38学級の全学級担任が年2回研究
授業を行うため、1回の授業研究に4〜5学級の授業を
同時に行う。全授業を少しずつ参観し、意見を書く形で
進めている

カードの活用方法

授業前に、参観者が意見を記入する「さん・かん・しゃ
カード」を配布。カードにはあらかじめ、「授業者
が見てほしい視点」(A)が書かれている

参観者は、自身の研究テーマに沿って、「授業を見
る上での自分の視点」(B)を記入。授業者の視点、
自分の視点の両方を踏まえて、意見を書き込む

授業後すぐに全員分を集め、授業ごとにまとめて印刷。
全員の意見が集約されているため、参観者の関心の高
い点や、意見が分かれている点を中心に議論するなど、
限られた時間でも密度の高い協議会となる

図2 意識共有の場の 設定

授業公開(随時)

研究推進委員が率先して自身の授業を公開。目指す授業像を具
体的に伝える

研究部会(毎月)

社会科、生活科、特別支援教育それぞれに設けられた「授業研
究部」、「カリキュラム編成部」、「資料部」の三つの研究部会の
いずれかに、教師全員が所属し、研究を進める

新任者・異動者向けの 研修会(年3〜4回)

テーマは、「指導案の形式の意図や作成方法」など。各研究部会
などがテーマや研修内容を決めて実施する

自由参加の勉強会 (年4〜5回)

テーマは「板書」「ノート」など。研究主任が開催し、テーマご
とにさまざまな教師がホスト役を務める

神奈川県川崎市立橘小学校



◎1914(大正3)年開校。
市内有数の大規模校だが、
子ども一人ひとりの個性
を大切に授業づくりを
目標に研究を続けている。
2009年度、全国小学校社
会科研究協議会神奈川大会
の会場校となった。

校 長 石川健次先生
児童数 1109人 学級数 38学級(うち特別支援学級7) 教員数 47人
所在地 〒213-0022 神奈川県川崎市高津区千代1024
TEL 044-766-4503
URL <http://www.keins.city.kawasaki.jp/2/ke205501/>
公開研究会 未定



鵜木朋和
Unoki Tomokazu

川崎市立橘小学校研究主任・6学年担任
「研究の過程には困難もあるが、やり遂
げることで、子どもも教師も得られる
ものが必ずあると信じ、伝えている」



松岡広記
Matsunaka Hiroki

川崎市立橘小学校教務主任・研究推進委員長
「互いに磨き合える研究とするため、
多くの先生方が少し背伸びをして届く
ような課題設定を心掛けている」



石川健次
Ishikawa Kenji

川崎市立橘小学校校長
「普段から出来る限り多くの授業を見
て、良い点を三つ、直した方が良い点
を二つ見付け、先生方に伝えている」

授業研究に学校全体で主体的に
取り組むために「心掛けています」

*プロフィールは取材時(2011年3月)のものです